

みみネット

-Index-

知っておきたい！補聴援助システムのキホン①
きこえる生徒と学び合う！
— 中学部バレーボール部での活動をととして —



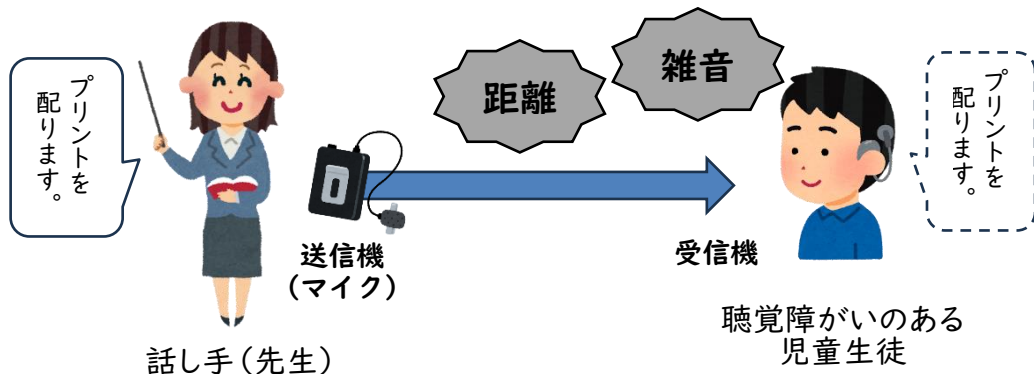
知っておきたい！補聴援助システムのキホン①

聴覚障がいのある児童生徒の入学を予定している学校では、座席の位置を前方に配置したり、音声を文字に変換するタブレット端末を用意したりと、本人・保護者とともに合理的配慮の方法について検討を進めていることと思います。今号では、聴覚障がいのある児童生徒の聴覚的情報保障のひとつである「補聴援助システム」について、ご紹介します。

補聴援助システムとは？

周りが静かな環境であれば、補聴器や人工内耳の装用によって、会話のききとりが向上する場合がありますが、周囲が騒がしいときや話し手との距離が離れているときなど、より一層ききとりにくくなる場面があります。

子どもの実態や学習環境にもよりますが、周囲の雑音や距離の影響を受けやすい場面では、きこえを補う手立てのひとつに「補聴援助システム」の活用が挙げられます。話し手の声を、専用のマイクから直接、補聴器や人工内耳に届けることで、雑音や距離などの影響がある程度抑えられ、ききとりやすくなります。



補聴援助システムの種類

主な補聴援助システムは、次の①～④です。

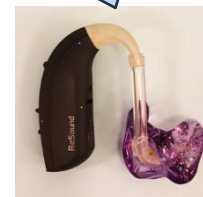
- ①磁気誘導ループシステム
- ②赤外線補聴システム
- ③FM 補聴システム
- ④デジタルワイヤレス補聴システム

①磁気誘導ループシステム

磁気誘導ループシステムの歴史は古く、世界共通で使用されています。床面などにループを設置した場所で活用できます。補聴器や人工内耳のプログラムを、Tモード（テレコイル）に切り替えることで、専用のマイクからの音声をききとります。

本校の新館ホールの床下には、ループが設置されています

プログラムをTモードに切り替えて、マイクからの音声をききとります



②赤外線補聴システム

赤外線補聴システムは、音声を赤外線に変換して伝えるシステムです。他の部屋との干渉がありません。専用のラジエーターを設置する必要があり、太陽光が当たる空間では使用できません。



③FM 補聴システム

FM 補聴システムは、169 MHz 帯のアナログ電波（FM）を利用して、話し手の声を届けるシステムです。設置工事の必要がなく、学校現場でも広く普及しましたが、チャンネル設定の煩わしさや、FM 電波の干渉などが課題となっていました。

④デジタルワイヤレス補聴システム

現在、多くの学校で導入されている補聴援助システムが、「ロジャー」や「エデュマイク」などのデジタルワイヤレス補聴システムです。「ロジャー」はフォナック、「エデュマイク」はオーティコンの製品で、どちらも 2.4GHz 帯デジタル電波を利用しています。

「エデュマイク」の場合は、受信機を購入しなくても、オーティコンの対応補聴器との接続が可能です。「ロジャー」の場合は、同じフォナックの補聴器を装着している場合であっても、基本的には受信機が必要になります。受信機の機能を本体にインストールするなどの方法で、送信機とペアリングして使用します。

デジタルワイヤレス補聴システム「ロジャー」

ロジャータッチスクリーンマイク



教育現場でよく使用されている送信機です。タッチスクリーン式で、操作しやすいなどの特徴があります。学習の状況に応じて、マイクモード（首掛けモード／小グループモード／インタビューモード）の選択が可能で、自動モードに設定すると、使用状況に応じてモードが自動的に切り替わります。（使用可能距離 約 20m）

- ・ 2 時間充電で約 10 時間使用可能
- ・ 幅 55mm×奥行 104mm×高さ 16mm 重さ 94g

ロジャーセレクト



電源ボタン、本体表面、本体裏面にインジゲータが付いています。ライトの点灯や点滅、色の変化によって、本体の状態を把握します。ききたい方向からの音声を、自分で選べるセレクト機能（特定の話し手がいる方向のセレクトキーをタップ）や、Bluetooth 機能が搭載されています。（使用可能距離 約 15m）

- ・ 2 時間充電で約 8 時間使用可能
- ・ 直径 55mm×高さ 12mm 重さ 28g

ロジャーオン（ロジャーオン V2）



軽量かつコンパクトに設計されている送信機です。プレゼンターモード（クリップで胸元に挟むか、ネックストラップを使用して話す）、卓上モード、インタビューモードの3つのマイクモードがあります。スマートフォンで調節ができるアプリに対応しています。（使用可能距離 約 25m）

- ・ 3 時間充電で約 10 時間使用可能
- ・ 幅 24mm×長さ 100mm×高さ 14mm 重さ 27g

その他、「ロジャーオン iN」や「ロジャーセレクト iN」など、対応補聴器専用の送信機もあります。補聴援助システムを使用するにあたって、気をつけておくポイントがいくつかあります。詳しい内容については、次号にて紹介します。

（参考）フォナック HP <https://www.phonak.com/jp/ja.html>

きこえる生徒と学び合う！ 中学部バレーボール部での活動をととして

本校のバレーボール部は、歴史のある部活動で、デフリンピックの金メダリストや、デフバレーボール日本代表に選ばれている卒業生が数多くいます。近年、全体的な生徒数の減少に伴い、バレーボール部の部員も少ない状況が続いていますが、意欲的に一生懸命頑張る生徒たちが集まっているので、地域の中学校や卒業生に協力してもらいながら日々活動しています。



自チームだけでは人数が揃わず試合に出られないので、大阪市内の地域の中学校と合同チームで公式戦に参加しています。今回は、**本校の生徒と地域の中学生が1つのチームとして活動する中での生徒たちの変化等**をお伝えします。



バレーボールをするうえで一番大切なことは、コミュニケーションです。はじめは聴者とコミュニケーションを図ろうとすると、教員の通訳に頼ることが多かったのですが、練習を重ねて慣れてくると、**まずは自身で伝えようとする姿勢**が見られるようになりました。地域の生徒も簡単な手話を覚えてくれたり、口を大きく開けて話してくれたり、数を指で表して教えてくれたりと、**どうしたら相手に伝わるのかを考え、お互いに変化が現れました。**

また、周りの生徒や監督の表情等をよく観察し、仲間を励ましたり鼓舞したりするには、どのようなことばや仕草が良いのか、一つのチームとして自分が何をしなければいけないのかを考えて、行動することができるようになりました。



毎日一緒に練習できないので技術面はまだですが、学校内外でのマナーや周りを見て自分で考えて動く力、仲間を思いやる気持ちや保護者への感謝など、部活動をととしてお互いに刺激を受けながら学び、身につけることができています。自チームで試合に出られることは良い面がたくさんありますが、合同チームで参加することもお互いにとって素晴らしい成長があると思います。このような経験をした生徒たちが、**今後自信をもって活躍してくれることを期待**しています。



（報告）中学部・藤井

お知らせ

聴覚支援センター（本校支援部）の直通電話番号ができました。

（支援部）TEL 06-7712-1405



「授業でどのように配慮すればいいの?」「どのように聞こえているの?」「教員研修会や理解授業支援を申し込みたい」など、聴覚に障がいのある子どもの支援や指導について気になることがある場合には、お気軽にお問い合わせください。

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL. 06-7712-1405（支援関係）／06-6761-1419（学校代表）
FAX. 06-6762-1800